

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495200537		
法人名	有限会社奏樹		
事業所名	グループホームみやぎの杜	ユニット名:	ひばり
所在地	宮城県仙台市宮城野区岩切字余目11番地		
自己評価作成日	令和 6 年 1 月 26 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 6 年 2 月 21 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の理念にもありますように「自立と共生の権利を尊ぶナラティブな関わり」を大切に、ご利用者と一緒に、同じ空間の中で居心地良く過ごせるような事業所を目指しています。一人ひとりの想いに耳を傾け、事業所としても様々な思いや願いを叶えることができるよう努めております。みやぎの杜に関わるすべての人とのご縁を大切にしながら「その人と何ができるか」を大切な視点とし、人とのつながり、地域とのつながりの中で事業所が地域の中で開けた事業所となるよう積極的に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR東北線岩切駅から車で10分程の七北田川に近い余目地区の住宅街の一角にあり、敷地には3棟の平屋建てのホーム「みやぎの杜」と小規模多機能型居宅介護「杜の家みやぎ」が隣り合わせに建っている。開設して22年目を迎え、重度化してきている「かもめ」、意思をはっきり伝える方が多い「つばめ」、しっかりしている方が多い「ひばり」それぞれ特徴のあるユニットを支える職員は、日常会話を多くとり、入居者の思いを引き出す支援に努めている。入居者の優しさに癒しを感じ、関われることに感謝し仕事にやりがいを感じているという。面会時間の制限をなくし、外出支援を多く取り入居者の笑顔を引き出す支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名グループホームみやぎの杜)「ユニット名:ひばり」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念「自立と共生の権理を尊ぶナラティブな関わり」に基づき、地域に愛される施設であるよう取り組んでいます。ユニット毎に目標を掲げ、ふりかえりを行い、ケアや生活の質の向上に取り組んでいます。	開設当初に作成した法人理念をを踏襲し、ユニット毎に目標を定め、振り返っている。職員は、入居者や家族と会話を多く持つことで思いや意向を引き出し、入居者の沢山の笑顔につながる支援に日々努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(夏祭り等)に参加させて頂いてます。また、事業所近隣を散歩しながら、地域の方と交流する機会があります。事業所では1か月に一度新聞を発行し、事業所の生活の様子を地域の方やご家族に届けるようにしています。	地域行事の夏祭りに準備から携わり、盆踊り等に参加したり、草刈りボランティアに入居者が参加することもある。近隣の方がホームに來所し、野菜や花などを差し入れてくれるなど日常的に交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターと連携をとり、児童の駆け込み110番や地域の困りごと相談所として役割を担っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の運営推進会議では、活動や取り組みについての報告をさせていただきながら事業所への理解を深めるとともに、話し合いから得た意見は、次期の事業所の取り組みに活かしています。	地域包括職員や民生委員、町内会長他がメンバーで、6回対面による会議を開催している。災害時の協力体制や入居者の避難先場所の紹介、地域の高齢者の情報など双方向の会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターの職員等にも参加いただいています。ケアサービスについて、市の担当者に相談したり、助言をいただきながら、取り組みについて伝え、協力を得ています。	生活保護受給者の定期訪問で保護課職員の来所があったり、事故報告書を提出している。地域包括支援センターからの依頼で管理者他が認知症について講話をした。運営指導があり、市職員が来所した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアに取り組むとともに、事業所内で勉強会、ミーティングを通じて職員への周知に努めています。また、身体拘束適正化委員会を3か月に1回開催し、不適切なケアについて振り返る機会を設けています。	会議では、各ユニットのグレーゾーンと思われる行為を抽出し、不適切ケアについて検討、考察を行い、職員にフィードバックしている。安全面や事故に繋がらないためにセンサーやカメラを設置し、地域の警察にお願いする等離接、事故対策を講じている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての理解を深めるよう、事業所内の勉強会、ミーティングなどを通じて職員の周知と注意喚起に努めています。	定期面談や不適切ケアについてのアンケートを実施したり、虐待防止マニュアルを配布し確認している。入居者への声かけは馴れ合いであったり、強い口調は入居者を委縮させることを伝え、防止策を徹底している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内や外部研修等で勉強会を行い、成年後見制度等について学ぶ機会を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や制度改定時は、内容について説明を十分にいき、ご本人やご家族の不安を取り除くよう努めています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱のほか、電話連絡や訪問時に日々のお話を通して意見や要望を集めるとともに、積極的に業務改善に反映するよう努めています。	家族に関りを増やし理解を得ることを目標に挙げ、面会の時間場所を制限せず、請求書と一緒に手紙等を送ったり、来所持に様子を話すなど改善に取り組んだ。往診時の様子や計画書についてなどを伝えている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員との面談や法人で定期的に行っているアンケートの実施などで、意見を収集したり、話し合う機会を設けています。	職場環境に関するアンケートを年1回実施している。集計し必要に応じて産業医による個人面談がある。外壁や屋根の修理をし、消耗品は必要時に購入したり、タイムテーブルの見直しなど意見が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	個人の能力にあわせながら役割分担を行うとともに、ご利用者と一緒に行うことを企画したり、職員がやりがいをもって働けるような環境を作るよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要な外部研修には参加できるよう機会を設けています。Zoomを活用した内部研修や事業所内の勉強会、ユニットミーティングを通して、一人ひとりのケアの質の向上に努めています。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各研修会などを通じて交流を図り、サービスの質の向上に向けた意見交換の場を設けています。(現在は、Zoom研修などで行っております)	毎月ある法人内の地域ケアよろず懇話会に職員が参加している。デイケアやデイサービスに入居者が通所したり、小規模施設と交流がある。福田町地域包括支援センターからの依頼で地域の方に管理者が講和をした。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査時等にて得た、ご本人の思いや考えをスタッフに周知し、ホームでの暮らしに慣れていただけるよう、細かな情報共有に努めています。また、現在の生活や関係性、ご本人やご家族の思いを継続できるよう、関係作りにも努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にご家族から要望やご本人の生活習慣などを伺い、ご利用者の不安等を傾聴し、信頼関係が作れるよう、対応には配慮しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人が抱えている問題等で、優先すべき事項を考え、必要に応じて多機能的なサービスを提案しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者「と」共に何ができるのかを常に考えています。料理や体操、入浴時の洋服選び等、ご本人が自己決定していただくように配慮しております。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、ご本人とご家族の時間を大切にして過ごして頂いたり、日々の生活の様子を伝えたり、ご本人と一緒に家に行くなど良い関係が保てるよう提案、工夫しています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔住んでいた場所に出掛けたり、お友達と連絡を取り、遊びに来て頂いたり関係が途切れないよう人とのつながりを大切にしています。	入居前の近所の友人や子供、孫、長年カットをしてくれているボランティアの方が馴染みとなり来訪している。自宅に行ったり法人の事業所にいる友人に会いに行くなど、要望に応じた馴染みの支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	少しでも不快な思いをする方がいないよう、日々の声掛けに気を配り、ご利用者同士が関係性を保ちつつ心地よく過ごせるよう配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前ご利用されていたご家族が美容院をされており、ボランティアで定期的に散髪していただいたりと、関係性が今も続いています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、想いや希望、意向を把握するよう努め、職員の申し送り、ミーティング等で検討し、要望を叶えられるよう努めています。	入居者との日常会話から引き出している。従前の住家の話を聞いて、女川まで職員と出かけ家族からクラシックが好きと聞き音楽を流す。表出困難な方には選択肢を提示し、表情から思いを引き出す支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの担当ケアマネより経過等の説明を受けるとともに、ご本人やご家族から話を伺って生活歴や生活環境等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人がお話したことや行動したこと、身体状況の変化などを個人記録に記入し、把握に努めております。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃からご家族と情報交換を密に行っており、状態変化があれば、情報共有に努め、状況に応じた対応をしている。また、ご本人・ご家族の意向についての確認をしながら、課題抽出を行っており、介護計画の作成に活かしています。	定期的にモニタリングを行い6か月毎に見直している。担当職員を中心に情報を収集し、家族と話し合い計画作成担当者が作成している。状態変化の際は医師と相談し、指導をもらい変更するなどしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者の状態把握するために、スタッフ間の情報共有を密に行い、状態変化があれば都度、情報共有しながら状況に応じた対応をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者、ご家族とのコミュニケーションの中でニーズをひろい、ホームだけのケアにとどまらず、理美容や、医療に関しても内科、精神科、歯科など多岐にわたり活用しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の一員として、出来る限り地域の方と交流、支援し合えるような関係性作りを心掛けています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望に沿うことができるようにかかりつけ医との連携を大切に、関係性を保つようしています。	認知症専門医2カ所の医療機関が主治医であり、定期的に外来受診を受けている。訪問看護師が週1回と他に処置に来ている。耳鼻科等の専門医の通院介助は受診報告書を持参し家族もしくは職員が同行している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝、前日の日勤帯及び夜間帯の報告を行うことで、早期の対応が必要な方の状況を把握しています。看護師と密に連携を図り、適切な受診やその他の観察が行えるように対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーにて全職員がいつでも情報を提供できる体制を作っています。また、こまめに病院関係者と連絡をとり、状態の把握、本人、ご家族の意向の確認を行い退院後の生活をイメージして受け入れの体制を考慮しています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期については、入居時に指針の説明をしています。実際にその場面において、ご本人やご家族の意向を確かめながら、事業所でできることを多職種によるチームで検討し、対応を行っています	入居時に延命に関する事を聞き取り、時期に応じて医師から話を家族にしてもらい同意を得ている。看取りチームを設置し看取り対応に入る。今年度は家族を交え医師、看護師、職員の対応で5名を看取った。看取り後にカンファレンスを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員がマニュアルをもとに定期的に訓練を行い、万が一に備えています。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練で緊急時の職員の体制を再確認するとともに、地域の方々に参加いただいで、役割分担など具体的な協力をお願いしています。	4月と9月に夜間想定を含む訓練を2回と他に災害種別訓練をした。家主や小規模の管理者の協力を得ている。家主からアパートの空室を利用するの避難場所提供の話があった。備蓄品等は1週間分保存している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いやご本人に対する接し方などに配慮し、なるべくご本人の意思で決められるよう声がけをし、おひとりおひとりの意見を尊重する様に対応しています。	居室の出入りは、ノックをして挨拶してからや排泄介助時のドアの開閉、衣類の汚れ等は居室で行うなど羞恥心に配慮するケアに努めている。居室やホールの過ごし方は一人ひとりの思いを尊重している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望や想いに耳を傾ける事に重点を置き、何をするにも必ずご本人に確認をとり、または選択していただくように心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の声に合わせて散歩、ドライブ、外出、外食、当事者の会参加、デイケア利用など、今できる活動について配慮し、柔軟に対応をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の際は化粧をしたり、本人の好きな洋服を購入できるように一緒に買い物に行くなどの工夫をしています。また、ご本人の希望に応じてマニキュアを塗るなどおやれができるよう配慮しております。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や片付け、味見などご利用者ができることを一緒に行っています。また、お一人おひとりの好みに合わせて、普段の食事ではなかなか難しいような食事も誕生会やクリスマスなどのイベントで楽しんでいただいています。	昼食は外注の弁当で朝食と夕食は職員が献立を作り調理する。誕生会や行事には本人希望の寿司やハンバーガー等に応じたり、おせちやバイキング等もある。台所に立つ入居者数名と一緒に作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人おひとりの食事の摂取量、水分量、食の嗜好、食習慣を把握した上で対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分でできる方は声がけ見守りをし、できない方に関しては介助にてケアを行い習慣としています。また、訪問歯科による口腔内衛生チェックやご指導を頂いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意や便意についてそれぞれの訴えやサインを見逃さないよう留意しながらトイレへの誘導を行い、対応しております。また個々の排泄パターンを理解し、個々に合わせた対応をすることで不快にならないよう配慮しています	歩行状態や車椅子移動、排泄前後の処理等個々の状態に応じて職員が対応し、おむつ使用者も在位保持が可能であればトイレに排泄をしている。排泄の観察状況や排便の有無等個人記録に記入している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	尿意や便意についてそれぞれの訴えやサインを見逃さないよう留意しながらトイレへの誘導を行い、対応しております。また個々の排泄パターンを理解し、個々に合わせた対応をすることで不快にならないよう配慮しています。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	ご本人の意向に添い、入浴したい時間に入って頂いています。入りたくない場合には無理せず、時間を変更したり、別日に入浴するなど臨機応変に対応しています。また、足浴等も行っています。	週2～3回の方が多いが、1日おきや温め、熱め等本人の要望に応じた支援である。2カ所に機械浴を設置し、檜風呂もある。入浴剤を使用したり、ゆず湯や菖蒲湯にして季節を楽しむ支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調の変化に配慮し、日中の休息や、起床・入眠のタイミングを各個人に合わせています。室温コントロール、寝具の清潔や調整も心掛けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医との連携のもと、その人の状態に応じた薬を服薬、副作用の有無を把握し、日々の体調管理に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや調理、洗濯を手伝っていただいたりと、特性を活かした役割を持って過ごしていただいています。また、会話の中から行きたい場所を聞くなど楽しみごとの支援を大切にしています。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の望んでいること、記念日イベントなどスタッフ間の連携を図り実行しています。また、突発的なご要望に対しても、応えらるるよう個別に対応するよう心掛けています。	ウッドデッキで日光浴をしながらお茶を飲んだり、ホームの敷地内を散歩している。季節に応じて花見や紅葉ドライブをしながら、県民の森や加瀬沼公園、七タミュージアム、園芸センター等に出かけている。買い物に行きたいなど本人の要望等にも応じている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される方にはご本人が管理できる程度のお金を持っていただき、必要に応じて買い物に出掛け、ご自分でお会計をしていただくよう支援しています。(現在はコロナの流行状況等をみながら買い物の支援を行っています)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の要望がある時にいつでも電話ができるように支援しています。ホームでのご様子がわかるよう、写真を貼付し定期的にご家族へお便りを郵送しています。Zoom(テレビ電話)での面会も促進していきます。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を味わえる設え作りに配慮しています。また、個々の体質と体調に合わせた細やかな室温調整や衣類の調整を行っております。埃や臭いには気を配り、汚れ物ができた場合は速やかに処理するよう心がけています。	陽当たりもよく明るいホールのすぐ前には、目を出している玉葱畑が見える。入居者の作品を飾り、日常の入居者の様子を大きく引き伸ばした写真を掲示し、節分の貼り絵を飾り季節感を出している。そこで入居者はレクリエーションをしたりして過ごすことが多い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを見たり、ソファで休まれたりと、それぞれが思い思いに過ごせるような空間を確保しています。また、スタッフが間に入って、ご利用者同士の会話を繋ぐなど、楽しく過ごせるように工夫しています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	必要な備品等に関して、ご本人が大切にいらしたもの、馴染みのあるものを自宅から持参していただき、居心地のよい環境作りに努めています。	フローリングの居室にはベッドやクローゼット、エアコンが設えてある。家族の写真やメッセージカード、ぬいぐるみを飾り、家族の遺影や位牌をおいている方もいる。入居者も一緒に掃除をする方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内や居室は安全かつ安心して暮らせるよう配置を工夫し、お一人おひとりの残存機能が活かせるような環境整備を心掛けています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495200537		
法人名	有限会社奏樹		
事業所名	グループホームみやぎの杜	ユニット名:	かもめ
所在地	宮城県仙台市宮城野区岩切字余目11番地		
自己評価作成日	令和 6 年 1 月 26 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 6 年 2 月 21 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の理念にもありますように「自立と共生の権利を尊ぶナラティブな関わり」を大切にし、ご利用者と一緒に、同じ空間の中で居心地良く過ごせるような事業所を目指しています。一人ひとりの想いに耳を傾け、事業所としても様々な思いや願いを叶えることができるよう努めております。みやぎの杜に関わるすべての人とのご縁を大切にしながら「その人と何ができるか」を大切な視点とし、人とのつながり、地域とのつながりの中で事業所が地域の中で開けた事業所となるよう積極的に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR東北線岩切駅から車で10分程の七北田川に近い余目地区の住宅街の一角にあり、敷地には3棟の平屋建てのホーム「みやぎの杜」と小規模多機能型居宅介護「杜の家みやぎ」が隣り合わせに建っている。開設して22年目を迎え、重度化してきている「かもめ」、意思をはっきり伝える方が多い「つばめ」、しっかりしている方が多い「ひばり」それぞれ特徴のあるユニットを支える職員は、日常会話を多くとり、入居者の思いを引き出す支援に努めている。入居者の優しさに癒しを感じ、関われることに感謝し仕事にやりがいを感じているという。面会時間の制限をなくし、外出支援を多く取り入居者の笑顔を引き出す支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37) ○	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12) ○
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名グループホームみやぎの杜)「ユニット名:かもめ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念「自立と共生の権利を尊ぶナラティブな関わり」に基づき、地域に愛される施設であるよう取り組んでいます。 ユニット毎に目標を掲げ、ふりかえりを行い、ケアや生活の質の向上に取り組んでいます。	開設当初に作成した法人理念をを踏襲し、ユニット毎に目標を定め、振り返っている。職員は、入居者や家族と会話を多く持つことで思いや意向を引き出し、入居者の沢山の笑顔につながる支援に日々努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(夏祭り等)に参加させて頂いてます。また、事業所近隣を散歩しながら、地域の方と交流する機会があります。事業所では1か月に一度新聞を発行し、事業所の生活の様子を地域の方やご家族に届けるようにしています。	地域行事の夏祭りに準備から携わり、盆踊り等に参加したり、草刈りボランティアに入居者が参加することもある。近隣の方がホームに來所し、野菜や花などを差し入れてくれるなど日常的に交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターと連携をとり、児童の駆け込み110番や地域の困りごと相談所として役割を担っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の運営推進会議では、活動や取り組みについての報告をさせていただきながら事業所への理解を深めるとともに、話し合いから得た意見は、次期の事業所の取り組みに活かしています。	地域包括職員や民生委員、町内会長他がメンバーで、6回対面による会議を開催している。災害時の協力体制や入居者の避難先場所の紹介、地域の高齢者の情報など双方向の会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターの職員等にも参加いただいています。ケアサービスについて、市の担当者に相談したり、助言をいただきながら、取り組みについて伝え、協力を得ています。	生活保護受給者の定期訪問で保護課職員の来所があったり、事故報告書を提出している。地域包括支援センターからの依頼で管理者他が認知症について講話をした。運営指導があり、市職員が来所した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアに取り組むとともに、事業所内で勉強会、ミーティングを通じて職員への周知に努めています。また、身体拘束適正化委員会を3か月に1回開催し、不適切なケアについて振り返る機会を設けています。	会議では、各ユニットのグレーゾーンと思われる行為を抽出し、不適切ケアについて検討、考察を行い、職員にフィードバックしている。安全面や事故に繋がらないためにセンサーやカメラを設置し、地域の警察にお願いする等離接、事故対策を講じている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての理解を深めるよう、事業所内の勉強会、ミーティングなどを通じて職員の周知と注意喚起に努めています。	定期面談や不適切ケアについてのアンケートを実施したり、虐待防止マニュアルを配布し確認している。入居者への声かけは馴れ合いであったり、強い口調は入居者を委縮させることを伝え、防止策を徹底している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内や外部研修等で勉強会を行い、成年後見制度等について学ぶ機会を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や制度改定時は、内容について説明を十分にいき、ご本人やご家族の不安を取り除くよう努めています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱のほか、電話連絡や訪問時に日々のお話を通して意見や要望を集めるとともに、積極的に業務改善に反映するよう努めています。	家族に関りを増やし理解を得ることを目標に挙げ、面会の時間場所を制限せず、請求書と一緒に手紙等を送ったり、来所持に様子を話すなど改善に取り組んだ。往診時の様子や計画書についてなどを伝えている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員との面談や法人で定期的に行っているアンケートの実施などで、意見を収集したり、話し合う機会を設けています。	職場環境に関するアンケートを年1回実施している。集計し必要に応じて産業医による個人面談がある。外壁や屋根の修理をし、消耗品は必要時に購入したり、タイムテーブルの見直しなど意見が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の能力にあわせながら役割分担を行うとともに、ご利用者と一緒に行けることを企画したり、職員がやりがいをもって働けるような環境を作るよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要な外部研修には参加できるよう機会を設けています。Zoomを活用した内部研修や事業所内の勉強会、ユニットミーティングを通して、一人ひとりのケアの質の向上に努めています。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各研修会などを通じて交流を図り、サービスの質の向上に向けた意見交換の場を設けています。(現在は、Zoom研修などで行っております)	毎月ある法人内の地域ケアよろず懇話会に職員が参加している。デイケアやデイサービスに入居者が通所したり、小規模施設と交流がある。福田町地域包括支援センターからの依頼で地域の方に管理者が講和をした。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査時等にて得た、ご本人の想いや考えをスタッフに周知し、ホームでの暮らしに慣れていただけるよう、細かな情報共有に努めています。また、現在の生活や関係性、ご本人やご家族の想いを継続できるよう、関係作りにも努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にご家族から要望やご本人の生活習慣などを伺い、ご利用者の不安等を傾聴し、信頼関係が作れるよう、対応には配慮しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人が抱えている問題等で、優先すべき事項を考え、必要に応じて多機能的なサービスを提案しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者「と」共に何ができるのかを常に考えています。料理や体操、入浴時の洋服選び等、ご本人が自己決定していただくように配慮しております。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、ご本人とご家族の時間を大切にして過ごして頂いたり、日々の生活の様子を伝えたり、ご本人と一緒に家に行くなど良い関係が保てるよう提案、工夫しています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔住んでいた場所に出掛けたり、お友達と連絡を取り、遊びに来て頂いたり関係が途切れないよう人とのつながりを大切にしています。	入居前の近所の友人や子供、孫、長年カットをしてくれているボランティアの方が馴染みとなり来訪している。自宅に行ったり法人の事業所にいる友人に会いに行くなど、要望に応じた馴染みの支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	少しでも不快な思いをする方がいないよう、日々の声掛けに気を配り、ご利用者同士が関係性を保ちつつ心地よく過ごせるよう配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前ご利用されていたご家族が美容院をされており、ボランティアで定期的に散髪していただいたりと、関係性が今も続いています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、想いや希望、意向を把握するよう努め、職員の申し送り、ミーティング等で検討し、要望を叶えられるよう努めています。	入居者との日常会話から引き出している。従前の住家の話を聞いて、女川まで職員と出かけ家族からクラシックが好きと聞き音楽を流す。表出困難な方には選択肢を提示し、表情から思いを引き出す支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの担当ケアマネより経過等の説明を受けるとともに、ご本人やご家族から話を伺って生活歴や生活環境等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人がお話したことや行動したこと、身体状況の変化などを個人記録に記入し、把握に努めております。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃からご家族と情報交換を密に行っており、状態変化があれば、情報共有に努め、状況に応じた対応をしている。また、ご本人・ご家族の意向についての確認をしながら、課題抽出を行っており、介護計画の作成に活かしています。	定期的にモニタリングを行い6か月毎に見直している。担当職員を中心に情報を収集し、家族と話し合い計画作成担当者が作成している。状態変化の際は医師と相談し、指導をもらい変更するなどしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者の状態把握するために、スタッフ間の情報共有を密に行い、状態変化があれば都度、情報共有しながら状況に応じた対応をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者、ご家族とのコミュニケーションの中でニーズをひろい、ホームだけのケアにとどまらず、理美容や、医療に関しても内科、精神科、歯科など多岐にわたり活用しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の一員として、出来る限り地域の方と交流、支援し合えるような関係性作りを心掛けています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望に沿うことができるようにかかりつけ医との連携を大切に、関係性を保つようとしています。	認知症専門医2カ所の医療機関が主治医であり、定期的に外来受診を受けている。訪問看護師が週1回と他に処置に来ている。耳鼻科等の専門医の通院介助は受診報告書を持参し家族もしくは職員が同行している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝、前日の日勤帯及び夜間帯の報告を行うことで、早期の対応が必要な方の状況を把握しています。看護師と密に連携を図り、適切な受診やその他の観察が行えるように対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーにて全職員がいつでも情報を提供できる体制を作っています。また、こまめに病院関係者と連絡をとり、状態の把握、本人、ご家族の意向の確認を行い退院後の生活をイメージして受け入れの体制を考慮しています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期については、入居時に指針の説明をしています。実際にその場面において、ご本人やご家族の意向を確かめながら、事業所でできることを多職種によるチームで検討し、対応を行っています	入居時に延命に関する事を聞き取り、時期に応じて医師から話を家族にしてもらい同意を得ている。看取りチームを設置し看取り対応に入る。今年度は家族を交え医師、看護師、職員の対応で5名を看取った。看取り後にカンファレンスを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員がマニュアルをもとに定期的に訓練を行い、万が一に備えています。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練で緊急時の職員の体制を再確認するとともに、地域の方々に参加いただいで、役割分担など具体的な協力をお願いしています。	4月と9月に夜間想定を含む訓練を2回と他に災害種別訓練をした。家主や小規模の管理者の協力を得ている。家主からアパートの空室を利用するの避難場所提供の話があった。備蓄品等は1週間分保存している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いやご本人に対する接し方などに配慮し、なるべくご本人の意思で決められるよう声がけをし、おひとりおひとりの意見を尊重する様に対応しています。	居室の出入りは、ノックをして挨拶をしてからや排泄介助時のドアの開閉、衣類の汚れ等は居室で行うなど羞恥心に配慮するケアに努めている。居室やホールの過ごし方は一人ひとりの思いを尊重している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望や想いに耳を傾ける事に重点を置き、何をするにも必ずご本人に確認をとり、または選択していただくように心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の声に合わせて散歩、ドライブ、外出、座ってお話をするなど、今できる活動について配慮し、柔軟に対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の際は化粧をしたり、昔好んで着ていた服装に近いイメージの洋服を選んで着ていただくなどの工夫をしています。また、ご本人の希望に応じてマニキュアを塗るなどおしゃれができるよう配慮しております。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な調理や片付けなどご利用者ができることを一緒に行っています。また、お一人おひとりの好みに合わせて、普段の食事ではなかなか難しいような食事も誕生会やクリスマスなどのイベントで楽しんでいただいています。	昼食は外注の弁当で朝食と夕食は職員が献立を作り調理する。誕生会や行事には本人希望の寿司やハンバーガー等に応じたり、おせちやバイキング等もある。台所に立つ入居者数名と一緒に作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人おひとりの食事の摂取量、水分量、食の嗜好、食習慣を把握した上で対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分でできる方は声がけ見守りをし、できない方に関しては介助にてケアを行い習慣としています。また、訪問歯科による口腔内衛生チェックやご指導を頂いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意や便意についてそれぞれの訴えやサインを見逃さないよう留意しながらトイレへの誘導を行い、対応しております。また個々の排泄パターンを理解し、個々に合わせた対応をすることで不快にならないよう配慮しています	歩行状態や車椅子移動、排泄前後の処理等個々の状態に応じて職員が対応し、おむつ使用者も在位保持が可能であればトイレに排泄をしている。排泄の観察状況や排便の有無等個人記録に記入している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	尿意や便意についてそれぞれの訴えやサインを見逃さないよう留意しながらトイレへの誘導を行い、対応しております。また個々の排泄パターンを理解し、個々に合わせた対応をすることで不快にならないよう配慮しています。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	ご本人の意向に添い、入浴したい時間に入って頂いています。入りたくない場合には無理せず、時間を変更したり、別日に入浴するなど臨機応変に対応しています。また、足浴等も行っています。	週2～3回の方が多いが、1日おきや温め、熱め等本人の要望に応じた支援である。2カ所に機械浴を設置し、檜風呂もある。入浴剤を使用したり、ゆず湯や菖蒲湯にして季節を楽しむ支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調の変化に配慮し、日中の休息や、起床・入眠のタイミングを各個人に合わせています。室温コントロール、寝具の清潔や調整も心掛けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医との連携のもと、その人の状態に応じた薬を服薬、副作用の有無を把握し、日々の体調管理に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや調理、洗濯を手伝っていただいたりと、特性を活かした役割を持って過ごしていただいています。また、会話の中から行きたい場所を聞くなどして外出に繋げたり、花を植えるなど生活を通じた楽しみごとの支援を大切にしています。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の望んでいること、記念日イベントなどスタッフ間の連携を図り実行しています。また、突発的なご要望に対しても、応えられるように個別で対応するよう心掛けています。	ウッドデッキで日光浴をしながらお茶を飲んだり、ホームの敷地内を散歩している。季節に応じて花見や紅葉ドライブをしながら、県民の森や加瀬沼公園、セタミュージアム、園芸センター等に出かけている。買い物に行きたいなど本人の要望等にも応じている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される方にはご本人が管理できる程度のお金を持っていただき、必要に応じて買い物に出掛け、ご自分でお会計をしていただくよう支援しています。(現在はコロナの流行状況等をみながら買い物の支援を行っています)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の要望がある時にいつでも電話ができるように支援しています。ホームでのご様子がわかるよう、写真を貼付し定期的にご家族へお便りを郵送しています。Zoom(テレビ電話)での面会も促進していきます。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を味わえる設え作りに配慮しています。また、個々の体質と体調に合わせた細やかな室温調整や衣類の調整を行っております。埃や臭いには気を配り、汚れ物ができた場合は速やかに処理するよう心がけています。	陽当たりもよく明るいホールのすぐ前には、目を出している玉葱畑が見える。入居者の作品を飾り、日常の入居者の様子を大きく引き伸ばした写真を掲示し、節分の貼り絵を飾り季節感を出している。そこで入居者はレクリエーションをしたりして過ごすことが多い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを見たり、和室で休まれたりと、それぞれが思い思いに過ごせるような空間を確保しています。また、スタッフが間に入って、ご利用者同士の会話を繋ぐなど、楽しく過ごせるように工夫しています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	必要な備品等に関して、ご本人が大切にしていたもの、馴染みのあるものを自宅から持参していただき、居心地のよい環境作りに努めています。	フローリングの居室にはベッドやクローゼット、エアコンが設えてある。家族の写真やメッセージカード、ぬいぐるみを飾り、家族の遺影や位牌をおいている方もいる。入居者も一緒に掃除をする方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内や居室は安全かつ安心して暮らせるよう配置を工夫し、お一人おひとりの残存機能が活かせるような環境整備を心掛けています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495200537		
法人名	有限会社奏樹		
事業所名	グループホームみやぎの杜	ユニット名: つばめ	
所在地	宮城県仙台市宮城野区岩切字余目11番地		
自己評価作成日	令和 6 年 1 月 26 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 6 年 2 月 21 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の理念にもありますように「自立と共生の権利を尊ぶナラティブな関わり」を大切にし、ご利用者と一緒に、同じ空間の中で居心地良く過ごせるような事業所を目指しています。一人ひとりの想いに耳を傾け、事業所としても様々な思いや願いを叶えることができるよう努めております。みやぎの杜に関わるすべての人とのご縁を大切にしながら「その人と何ができるか」を大切な視点とし、人とのつながり、地域とのつながりの中で事業所が地域の中で開けた事業所となるよう積極的に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR東北線岩切駅から車で10分程の七北田川に近い余目地区の住宅街の一角にあり、敷地には3棟の平屋建てのホーム「みやぎの杜」と小規模多機能型居宅介護「杜の家みやぎ」が隣り合わせに建っている。開設して22年目を迎え、重度化してきている「かもめ」、意思をはっきり伝える方が多い「つばめ」、しっかりしている方が多い「ひばり」それぞれ特徴のあるユニットを支える職員は、日常会話を多くとり、入居者の思いを引き出す支援に努めている。入居者の優しさに癒しを感じ、関われることに感謝し仕事にやりがいを感じているという。面会時間の制限をなくし、外出支援を多く取り入居者の笑顔を引き出す支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名グループホームみやぎの杜)「ユニット名:つばめ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念「自立と共生の権理を尊ぶナラティブな関わり」に基づき、地域にされる施設であるよう取り組んでいます。ユニット毎に目標を掲げ、ふりかえりを行い、ケアや生活の質の向上に取り組んでいます。	開設当初に作成した法人理念をを踏襲し、ユニット毎に目標を定め、振り返っている。職員は、入居者や家族と会話を多く持つことで思いや意向を引き出し、入居者の沢山の笑顔につながる支援に日々努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(夏祭り等)に参加させて頂いてます。また、事業所近隣を散歩しながら、地域の方と交流する機会があります。事業所では1か月に一度新聞を発行し、事業所の生活の様子を地域の方やご家族に届けるようにしています。	地域行事の夏祭りに準備から携わり、盆踊り等に参加したり、草刈りボランティアに入居者が参加することもある。近隣の方がホームに來所し、野菜や花などを差し入れてくれるなど日常的に交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターと連携をとり、児童の駆け込み110番や地域の困りごと相談所として役割を担っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の運営推進会議では、活動や取り組みについての報告をさせていただきながら事業所への理解を深めるとともに、話し合いから得た意見は、次期の事業所の取り組みに活かしています。	地域包括職員や民生委員、町内会長他がメンバーで、6回対面による会議を開催している。災害時の協力体制や入居者の避難先場所の紹介、地域の高齢者の情報など双方向の会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターの職員等にも参加いただいています。ケアサービスについて、市の担当者に相談したり、助言をいただきながら、取り組みについて伝え、協力を得ています。	生活保護受給者の定期訪問で保護課職員の来所があったり、事故報告書を提出している。地域包括支援センターからの依頼で管理者他が認知症について講話をした。運営指導があり、市職員が来所した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアに取り組むとともに、事業所内で勉強会、ミーティングを通じて職員への周知に努めています。また、身体拘束適正化委員会を3か月に1回開催し、不適切なケアについて振り返る機会を設けています。	会議では、各ユニットのグレーゾーンと思われる行為を抽出し、不適切ケアについて検討、考察を行い、職員にフィードバックしている。安全面や事故に繋がらないためにセンサーやカメラを設置し、地域の警察にお願いする等離接、事故対策を講じている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての理解を深めるよう、事業所内の勉強会、ミーティングなどを通じて職員の周知と注意喚起に努めています。	定期面談や不適切ケアについてのアンケートを実施したり、虐待防止マニュアルを配布し確認している。入居者への声かけは馴れ合いであったり、強い口調は入居者を委縮させることを伝え、防止策を徹底している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内や外部研修等で勉強会を行い、成年後見制度等について学ぶ機会を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や制度改定時は、内容について説明を十分にいき、ご本人やご家族の不安を取り除くよう努めています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱のほか、電話連絡や訪問時に日々のお話を通して意見や要望を集めるとともに、積極的に業務改善に反映するよう努めています。	家族に関りを増やし理解を得ることを目標に挙げ、面会の時間場所を制限せず、請求書と一緒に手紙等を送ったり、来所持に様子を話すなど改善に取り組んだ。往診時の様子や計画書についてなどを伝えている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員との面談や法人で定期的に行っているアンケートの実施などで、意見を収集したり、話し合う機会を設けています。	職場環境に関するアンケートを年1回実施している。集計し必要に応じて産業医による個人面談がある。外壁や屋根の修理をし、消耗品は必要時に購入したり、タイムテーブルの見直しなど意見が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	個人の能力にあわせながら役割分担を行うとともに、ご利用者と一緒に行うことを企画したり、職員がやりがいをもって働けるような環境を作るよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要な外部研修には参加できるよう機会を設けています。Zoomを活用した内部研修や事業所内の勉強会、ユニットミーティングを通して、一人ひとりのケアの質の向上に努めています。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各研修会などを通じて交流を図り、サービスの質の向上に向けた意見交換の場を設けています。(現在は、Zoom研修などで行っております)	毎月ある法人内の地域ケアよろず懇話会に職員が参加している。デイケアやデイサービスに入居者が通所したり、小規模施設と交流がある。福田町地域包括支援センターからの依頼で地域の方に管理者が講和をした。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査時等にて得た、ご本人の想いや考えをスタッフに周知し、ホームでの暮らしに慣れていただけるよう、細かな情報共有に努めています。また、現在の生活や関係性、ご本人やご家族の想いを継続できるよう、関係作りにも努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にご家族から要望やご本人の生活習慣などを伺い、ご利用者の不安等を傾聴し、信頼関係が作れるよう、対応には配慮しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人が抱えている問題等で、優先すべき事項を考え、必要に応じて多機能的なサービスを提案しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者「と」共に何ができるのかを常に考えています。料理や体操、入浴時の洋服選び等、ご本人が自己決定していただくように配慮しております。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、ご本人とご家族の時間を大切にして過ごして頂いたり、日々の生活の様子を伝えたり、ご本人と一緒に家に行くなど良い関係が保てるよう提案、工夫しています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔住んでいた場所に出掛けたり、お友達と連絡を取り、遊びに来て頂いたり関係が途切れないよう人とのつながりを大切にしています。	入居前の近所の友人や子供、孫、長年カットをしてくれているボランティアの方が馴染みとなり来訪している。自宅に行ったり法人の事業所にいる友人に会いに行くなど、要望に応じた馴染みの支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	少しでも不快な思いをする方がいないよう、日々の声掛けに気を配り、ご利用者同士が関係性を保ちつつ心地よく過ごせるよう配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前ご利用されていたご家族が美容院をされており、ボランティアで定期的に散髪していただいたりと、関係性が今も続いています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、想いや希望、意向を把握するよう努め、職員の申し送り、ミーティング等で検討し、要望を叶えられるよう努めています。	入居者との日常会話から引き出している。従前の住家の話を聞いて、女川まで職員と出かけ家族からクラシックが好きと聞き音楽を流す。表出困難な方には選択肢を提示し、表情から思いを引き出す支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの担当ケアマネより経過等の説明を受けるとともに、ご本人やご家族から話を伺って生活歴や生活環境等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人がお話したことや行動したこと、身体状況の変化などを個人記録に記入し、把握に努めております。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃からご家族と情報交換を密に行っており、状態変化があれば、情報共有に努め、状況に応じた対応をしている。また、ご本人・ご家族の意向についての確認をしながら、課題抽出を行っており、介護計画の作成に活かしています。	定期的にモニタリングを行い6ヵ月毎に見直している。担当職員を中心に情報を収集し、家族と話し合い計画作成担当者が作成している。状態変化の際は医師と相談し、指導をもらい変更するなどしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者の状態把握するために、スタッフ間の情報共有を密に行い、状態変化があれば都度、情報共有しながら状況に応じた対応をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者、ご家族とのコミュニケーションの中でニーズをひろい、ホームだけのケアにとどまらず、理美容や、医療に関しても内科、精神科、歯科など多岐にわたり活用しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の一員として、出来る限り地域の方と交流、支援し合えるような関係性作りを心掛けています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望に沿うことができるようにかかりつけ医との連携を大切に、関係性を保つようとしています。	認知症専門医2カ所の医療機関が主治医であり、定期的に外来受診を受けている。訪問看護師が週1回と他に処置に来ている。耳鼻科等の専門医の通院介助は受診報告書を持参し家族もしくは職員が同行している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝、前日の日勤帯及び夜間帯の報告を行うことで、早期の対応が必要な方の状況を把握しています。看護師と密に連携を図り、適切な受診やその他の観察が行えるように対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーにて全職員がいつでも情報を提供できる体制を作っています。また、こまめに病院関係者と連絡をとり、状態の把握、本人、ご家族の意向の確認を行い退院後の生活をイメージして受け入れの体制を考慮しています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期については、入居時に指針の説明をしています。実際にその場面において、ご本人やご家族の意向を確かめながら、事業所でできることを多職種によるチームで検討し、対応を行っています	入居時に延命に関する事を聞き取り、時期に応じて医師から話を家族にしてもらい同意を得ている。看取りチームを設置し看取り対応に入る。今年度は家族を交え医師、看護師、職員の対応で5名を看取った。看取り後にカンファレンスを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員がマニュアルをもとに定期的に訓練を行い、万が一に備えています。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練で緊急時の職員の体制を再確認するとともに、地域の方々に参加いただいで、役割分担など具体的な協力をお願いしています。	4月と9月に夜間想定を含む訓練を2回と他に災害種別訓練をした。家主や小規模の管理者の協力を得ている。家主からアパートの空室を利用するの避難場所提供の話があった。備蓄品等は1週間分保存している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いやご本人に対する接し方などに配慮し、なるべくご本人の意思で決められるよう声がけをし、おひとりおひとりの意見を尊重する様に対応しています。	居室の出入りは、ノックをして挨拶をしてからや排泄介助時のドアの開閉、衣類の汚れ等は居室で行うなど羞恥心に配慮するケアに努めている。居室やホールの過ごし方は一人ひとりの思いを尊重している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望や想いに耳を傾ける事に重点を置き、何をするにも必ずご本人に確認をとり、または選択していただくように心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の声に合わせたドライブ、外出、デイケア利用、地域ボランティアなど今できる活動について配慮し、柔軟に対応をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服などの購入は一緒に買い物にいくなど、本人が好みの服を選び、着用できるように配慮しています。また、ご本人の希望に応じてマニキュアを塗るなどおやれができるよう配慮しております。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の意向を確認しながら準備、片付けなど一緒に行っております。お一人おひとりの好みに合わせて、普段の食事ではなかなか難しいような食事も誕生会やクリスマスなどのイベントで楽しんでいただいています。	昼食は外注の弁当で朝食と夕食は職員が献立を作り調理する。誕生会や行事には本人希望の寿司やハンバーガー等に応じたり、おせちやバイキング等もある。台所に立つ入居者数名と一緒に作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人おひとりの食事の摂取量、水分量、食の嗜好、食習慣を把握した上で対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分でできる方は声がけ見守りをし、できない方に関しては介助にてケアを行い習慣としています。また、訪問歯科による口腔内衛生チェックやご指導を頂いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意や便意についてそれぞれの訴えやサインを見逃さないよう留意しながらトイレへの誘導を行い、対応しております。また個々の排泄パターンを理解し、個々に合わせた対応をすることで不快にならないよう配慮しています	歩行状態や車椅子移動、排泄前後の処理等個々の状態に応じて職員が対応し、おむつ使用者も在位保持が可能であればトイレに排泄をしている。排泄の観察状況や排便の有無等個人記録に記入している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	尿意や便意についてそれぞれの訴えやサインを見逃さないよう留意しながらトイレへの誘導を行い、対応しております。また個々の排泄パターンを理解し、個々に合わせた対応をすることで不快にならないよう配慮しています。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	ご本人の意向に添い、入浴したい時間に入って頂いています。入りたくない場合には無理せず、時間を変更したり、別日に入浴するなど臨機応変に対応しています。また、足浴等も行っています。	週2～3回の方が多いが、1日おきや温め、熱め等本人の要望に応じた支援である。2カ所に機械浴を設置し、檜風呂もある。入浴剤を使用したり、ゆず湯や菖蒲湯にして季節を楽しむ支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調の変化に配慮し、日中の休息や、起床・入眠のタイミングを各個人に合わせています。室温コントロール、寝具の清潔や調整も心掛けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医との連携のもと、その人の状態に応じた薬を服薬、副作用の有無を把握し、日々の体調管理に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや調理、洗濯を手伝っていただいたり、特性を活かした役割を持って過ごしていただいています。また、デイケアを利用したり、地域のボランティア活動などをされているご利用者もおります。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の望んでいること、記念日イベントなどスタッフ間の連携を図り実行しています。また、突発的なご要望に対しても、応えらるるよう個別に対応するよう心掛けています。	ウッドデッキで日光浴をしながらお茶を飲んだり、ホームの敷地内を散歩している。季節に応じて花見や紅葉ドライブをしながら、県民の森や加瀬沼公園、七タミュージアム、園芸センター等に出かけている。買い物に行きたいなど本人の要望等にも応じている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される方にはご本人が管理できる程度のお金を持っていただき、必要に応じて買い物に出掛け、ご自分でお会計をしていただくよう支援しています。(現在はコロナの流行状況等をみながら買い物の支援を行っています)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の要望がある時にいつでも電話ができるように支援しています。ホームでのご様子がわかるよう、写真を貼付し定期的にご家族へお便りを郵送しています。Zoom(テレビ電話)での面会も促進していきます。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を味わえる設え作りに配慮しています。また、個々の体質と体調に合わせた細やかな室温調整や衣類の調整を行っております。埃や臭いには気を配り、汚れ物ができた場合は速やかに処理するよう心がけています。	陽当たりもよく明るいホールのすぐ前には、目を出している玉葱畑が見える。入居者の作品を飾り、日常の入居者の様子を大きく引き伸ばした写真を掲示し、節分の貼り絵を飾り季節感を出している。そこで入居者はレクリエーションをしたりして過ごすことが多い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを見たり、和室で休まれたりと、それぞれが思い思いに過ごせるような空間を確保しています。また、座席の配慮やスタッフが間に入って、ご利用者同士の会話を繋ぐなど、楽しく過ごせるように工夫しています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	必要な備品等に関して、ご本人が大切にしていたもの、馴染みのあるものを自宅から持参していただき、居心地のよい環境作りに努めています。	フローリングの居室にはベッドやクローゼット、エアコンが設えてある。家族の写真やメッセージカード、ぬいぐるみを飾り、家族の遺影や位牌をおいている方もいる。入居者も一緒に掃除をする方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内や居室は安全かつ安心して暮らせるよう配置を工夫し、お一人おひとりの残存機能が活かせるような環境整備を心掛けています。		